

# 福島第一原子力発電所の状況

平成 26 年 9 月 22 日  
東京電力株式会社

## < 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (9/22 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h	28.9	3.4 kPa g	A系： 0.02 vol%
		給水系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.02 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.5 m <sup>3</sup> /h	36.4	7.31 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 2.0 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.07 Vol%
3号機	淡水 注入中	炉心ブレイ系：約 2.4 m <sup>3</sup> /h	35.0	0.19 kPa g	A系： 0.06 Vol%
		給水系：約 1.9 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 Vol%

## < 2. 使用済燃料プールの状況 > (9/22 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	25.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	22.3 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	20.9 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	21.6 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウエルへヒドランジンの注入を適宜実施。

## < 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容 処理建屋[高温焼却炉建屋])	9/3 10:47 ~ 移送実施中

## < 4. 水処理設備および貯蔵設備の状況 > (9/22 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備
運転 状況	停止中*1	運転中*1	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット試験中*2	A系ホット試験中*2

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

\*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・H26/8/20～ 今後、設置が計画されている高性能多核種除去設備の除去性能及び吸着材の交換周期等を検証するため、検証試験装置を用いて、実液通水による検証試験を実施。試験期間は3ヶ月程度を予定。
- ・H26/9/21 22:00～ 多核種除去設備C系において、鉄共沈処理を行っているクロスフローフィルター(CFF)を改良型CF Fへ交換するため、処理運転を停止。処理運転停止後の状況について異常がないことを確認。

## < 5. その他 >

- ・8/29 12:45 頃、3号機使用済燃料プール内瓦礫撤去作業において、燃料交換機の操作卓をクレーンにてつり上げるため専用治具で操作卓をつかもうとしたところ、操作卓が当該プール東側中央付近に落下。落下した燃料交換機の操作卓は、燃料ラック上部に設置してある養生材(鉄板高さ 30cm 程度)と、当該プール内の瓦礫の間に落下していることを確認。  
なお、使用済燃料プール水の放射能分析結果が前回と比較して有意な変動がないことと、プラントパラメータに有意な変動がないことから、燃料破損等の兆候は確認されていない。

<使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:9/20)>

- ・セシウム 134:  $3.9 \times 10^2$  Bq/cm<sup>3</sup>
- ・セシウム 137:  $1.2 \times 10^3$  Bq/cm<sup>3</sup>
- ・コバルト 60: 検出限界値未満(検出限界値:  $1.1 \times 10^0$  Bq/cm<sup>3</sup>)

プラントパラメータ(9/20 16時現在)

- ・モニタリングポスト : 有意な変化なし
- ・原子炉建屋オペフロ雰囲気線量 : 有意な変化なし
- ・使用済燃料プール水位 : 有意な変化なし
- ・スキマーサージタンク水位 : 有意な変化なし

<使用済燃料プール水の放射能分析の結果(採取日:9/21)>

- ・セシウム 134:  $3.8 \times 10^2$  Bq/cm<sup>3</sup>
- ・セシウム 137:  $1.1 \times 10^3$  Bq/cm<sup>3</sup>
- ・コバルト 60: 検出限界値未満(検出限界値:  $1.1 \times 10^0$  Bq/cm<sup>3</sup>)

プラントパラメータ(9/21 16時現在)

- ・モニタリングポスト : 有意な変化なし
- ・原子炉建屋オペフロ雰囲気線量 : 有意な変化なし
- ・使用済燃料プール水位 : 有意な変化なし
- ・スキマーサージタンク水位 : 有意な変化なし

- ・H26/1/29～ 2号機海水配管トレンチ凍結止水工事における凍結管を設置するための削孔について、凍結管を設置するための削孔を実施中。削孔作業と並行して、3/27より挿入作業ができるようになった孔から順次、凍結管およびバッカー挿入の作業を開始。
- 4/2～ 挿入が完了した凍結管について凍結を開始。
- 7/28～ 2号機海水配管トレンチ立坑Aの止水壁造成に向けた追加対策として、滞留水の冷却を目的にトレンチ内へ氷・ドライアイスの投入をすることとしているが、7/24、25に実施した試験投入の結果を踏まえ、7/28より氷の本格投入を開始。
- 8/12～ ドライアイスを追加で投入開始。
- ・H26/3/14 13:35～ 共用プール西側において、凍土遮水壁の実証試験(凍結試験)を開始。
- ・H26/6/2～ 凍土遮水壁工事を開始。
- ・H26/9/19～ サブドレン浄化設備一体型タンク設置工事で起重機船を入港させるため、1～4号機取水口付近に設置したシルトフェンスの開閉を、以下のとおり実施。
  - ・9/19 10:14(シルトフェンス開)～11:13(シルトフェンス閉)
  - ・9/21 9:28(シルトフェンス開)～10:09(シルトフェンス閉)

**【地下水バイパス揚水井の状況】**

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・1～4号機原子炉建屋等への地下水流入抑制対策として設置した地下水バイパス設備について、地下水バイパス一時貯留タンクグループ1の当社および第三者機関による分析結果[採取日 9/9]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。9/18 10:08より海洋への排水を開始。排水状況については、10:11 漏えい等の異常がないことを確認。同日 16:20 に排水を停止。排水状態に異常がないことを確認。排水量については 1,511m<sup>3</sup>。同日、この際の南放水口付近の海水についてサンプリングを実施し、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- ・8/29 20:17 地下水バイパス揚水井 No.12 の分析結果(8/28 採取)において、トリチウム濃度が 1,900Bq/L であり、一時貯留タンクの運用目標値 1,500Bq/L を上回っていることを確認したことから、当該揚水井の汲み上げを停止。なお、地下水バイパス揚水井 No.12 の分析結果については、第三者機関による分析においても同等の結果だった。
- 9/20 10:05 地下水バイパス揚水井 No.12 については、トリチウム濃度が運用目標値を超えていたことから汲み上げを停止していたが、一時貯留タンク側の評価を行った結果、汲み上げに問題がないことから、地下水バイパス揚水井 No.12 の汲み上げを再開。再開後の現場は異常なし。なお、今後も地下水バイパス揚水井 No.12 については、トリチウム分析結果傾向の監視強化を継続し、一時貯留タンクへの影響がないことを確認する。
- ・地下水バイパス一時貯留タンクグループ3の当社および第三者機関による分析結果[採取日 9/14]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。

**【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】**

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】**

<地下水観測孔サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

**【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】**

<地下貯水槽サンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上